

愛・地球博への 出展について

21世紀の社会資本を考える実行委員会
事務局 国土交通省中部地方整備局企画部

CHUBU GA GENKI

事業調整官 村上 ^{むらかみ} ^{よしたか} 由高

1. はじめに

私たちの身の回りの、あって当たり前の道路・河川・港湾等は、今や私たちの生活にとってかかせないものとなっています。現代の豊かな生活は戦後のこれら社会資本整備とそれを支える土木技術の発展により作られてきました。21世紀に入り社会資本整備を取り巻く状況が大きく変わろうとするときに、将来を見据えたその姿を皆で探していかなければなりません。

今年3月25日から185日間、我が国で35年ぶりの万国博覧会『愛・地球博』が開催され、多くの人々（目標入場者数1,500万人）が会場を訪れます。この絶好の機会に、これまでの社会資本につ

いて来場者の皆さんと今一度振り返るとともに、今後のあり方進め方について共に考える機会としたい。そんな思いから今回「21世紀の社会資本を考える実行委員会」を設立し、より多くの方の参加を得て出展することとなりました。

万博会場内での出展はモリゾー・キッコロメッセで夏期の企画催事と185日間常設の「水のループ」が展開されます。

2. モリゾー・キッコロメッセ

最初に紹介するパビリオン「モリゾー・キッコロメッセ」は子どもや家族向けパビリオン・施設が集まる「遊びと参加ゾーン」内にあり、テーマは「協働と技術でつくる美しい国と地球」です。また出展期間は8/12～9/1とちょうど夏休み期間となります。ですから今回は特に未来を担う子ども達にも理解してもらえるような企画を検討しています。



愛・地球博会場

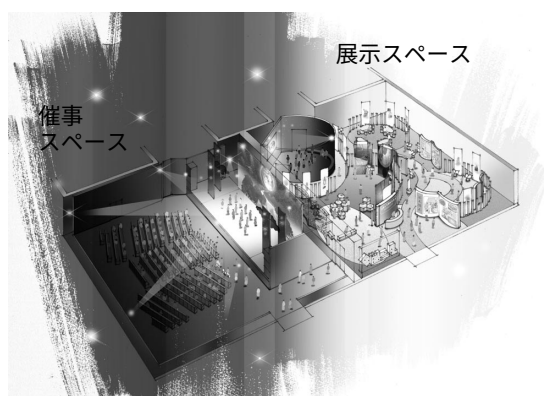
《目 的》

- ・社会資本整備の重要性とそれを支える土木技術を紹介する。
- ・社会資本整備の歩みや中部の未来ビジョンを提示し、その重要性や未来ビジョンを共に考

え，共感から協働へと繋げていく。

- ・土木建設の持つ可能性や重要性，魅力を広くアピールする。
- ・循環型社会のモデル構築に向けて，市民と共に考えていける場とする。
- ・未来を担う子どもたちが，創造性や楽しさを体感できる場とする。

会場となるモリゾー・キッコロメッセは「催事スペース」と「展示スペース」に分け，催事スペースではメインプログラムとして国土づくりを題材にしたオリジナルミュージカルを上演します。出演はプロの「劇団ふるさときゃらばん」とオーディションで選ばれる市民出演者。子どもからおとなまで楽しめる歌と音楽で一杯のステージを通し，ステージの上でも協働で今後の社会資本整備のあり方を行政と市民が共に考えていきます。



会場イメージ

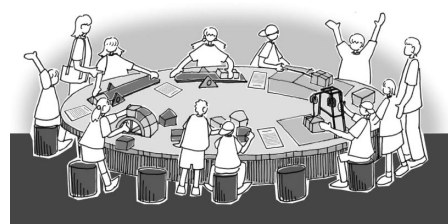
また，1日3回上演のミュージカルの幕間には，「みち」「かわ」「みなと」などの期間テーマを設け，テーマに応じた事業広報を来場者参加の



ミュージカルイメージ

クイズ・ゲームや楽しい映画など，子どもたちが楽しく学べる内容で展開していきます。

展示スペースでは，土木の原点である「道」を踏みしめながら古今東西の土木にまつわるさまざまなエピソードを見開き型大型絵本で紹介する『土木の道』，親子でまた友達同士で模型の組立や体験を通じてさまざまな土木技術を楽しく遊びながら学べる『体験ひろば』，迫力あるビッグプロジェクトの巨大写真や実物資料で日本の最先端土木技術等を紹介する『夢を実現する土木／くらしをささえる土木』，愛・地球博のテーマにふさわしい，美しい地球を再生するための土木の浄化技術やリサイクル・リユース等の土木の姿を紹介する『環境へのとりくみ』，大型スクリーンを使い，ナビゲーターのガリレオが宇宙船で古代から現代までの地球を探検し土木の新しい姿とその必要性を探る『ガリレオ映像シアター』など，土木について見て触れて体験する各種展示を行っています。



体験ひろばイメージ



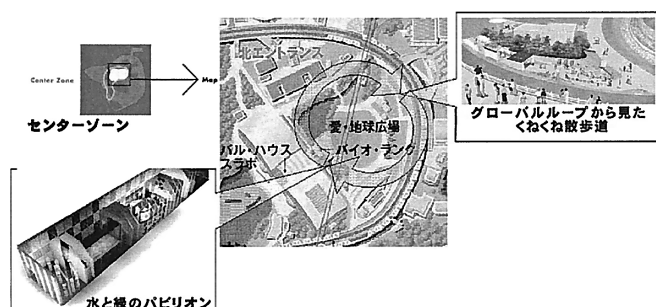
夢を実現する土木／くらしを
ささえる土木イメージ

このような催事スペースと展示スペースが一体となったさまざまなプログラムや展示を通じ，来場者の皆さんに国土づくりの大切さと土木の魅力を楽しく学んでいただきます。

3. 水のループ（水循環）

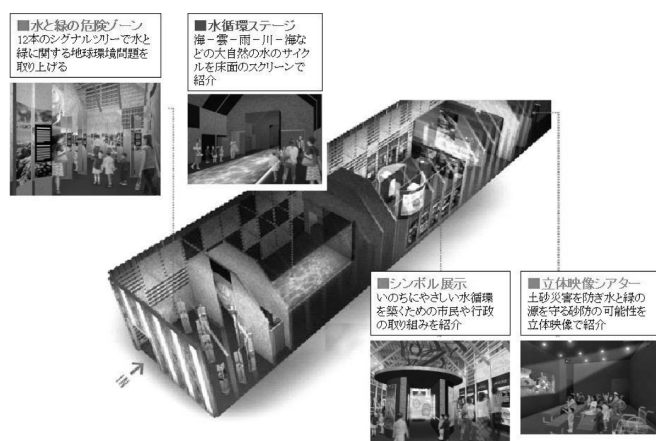
「地球上の全ての生命を支える水の健全な循環を守ることを大切さと、そのために一人一人がそれぞれができることを考えたい。」というメッセージの発信を目的として、「水のループ（水循環）」を3月25日から9月25日まで出展します。

水のループ（水循環）は、愛・地球広場の長久手会場の真ん中の一大交流ゾーンであるセンターゾーンに出展します。施設としては、愛・地球博に訪れた人々が、愛・地球広場の周りをぐるりと一周することでメッセージが伝わるように、バイオ・ラングをはさんだ愛・地球広場の両端に「水と緑のパビリオン」と「くねくね体験散歩道」を合わせて設置します。



(1) 水と緑のパビリオン

「水と緑のパビリオン」は、グローバル・ハウ



水と緑のパビリオンイメージ

スに隣接して設置する、水のループ（水循環）のメッセージを映像や音響などにより発信する、パビリオンで、「水と緑の危険ゾーン」「水循環ステージ」「シンボル展示室」および「立体映像シアター」の四つの“部屋”で構成されます。

① 水と緑の危険ゾーン

「水と緑の危険ゾーン」は、水のループ（水循環）のイントロダクションとして、地球温暖化現象、洪水や干ばつ、水源地の荒廃状況など、現在、地球上で発生しているさまざまな水と緑に関する問題を提示し、健全な水循環に危うさが迫っていることを訴えます。

② 水循環ステージ

「水循環ステージ」では、「水の旅」として、海や地表面から蒸発して雲や霧になり、降雨や雪となってまた地表面に降り、地下に浸透したり河川となってまた海へ戻るという自然の循環過程に上水道などの取水や下水道への排出などの人為的な経路が加えられた、地球上における壮大で複雑な水循環の大きな流れを説明します。

③ シンボル展示室

「シンボル展示室」は、水のループ（水循環）のメッセージ発信基地として、危うさが迫っている水循環を健全に守るために行政や市民が取り組んでいる内容を紹介し、愛・地球博に訪れた人々が、それぞれ何ができるのか、何をしたらよいのかを考えるきっかけ・ヒントを提示します。

また、愛・地球博のもう一つの会場である瀬戸会場一帯は、まさにかつて荒廃していた水源地を植林する等により緑を回復した地であることから、瀬戸会場のエントランスにおいて、パネル等によりその回復への取り組みを説明します。

④ 立体映像シアター

「立体映像シアター」では、土砂災害を防ぎ水と緑の源を守る取り組みについて、土石流の映像を交えながら立体映像で紹介し、これまでの三つの“部屋”で発信したメッセージを再確認していただきます。

(2) くねくね体験散歩道

「くねくね体験散歩道」は、音と映像によりメッセージを理解してもらうことを目的とした「水と緑のパビリオン」に対して、具体的に水のはたらきなどを触れ、体感してもらうことを目的とした施設で、「降雨体感施設」や「冷風機」「水上歩行路」などで構成されます。



くねくね体験散歩道イメージ

① 降雨体感施設

降雨体感施設は、散歩道の両側に設けた透明のパネルの向こう側で、近年発生した豪雨などを再現します。パネルにはスリットを設けますので訪れた人は手を差し出すなどにより、豪雨のすさまじさを肌で体感することができます。

② 冷風機

散歩道には、水の気化熱を利用する冷風機により適度な温度が保たれるエアートンネルを設けます。トンネル内は、滝やヒノキの香りを流しリラクゼーション空間が創出され、訪れた人々は施設の内外を比較することで、水の働きを全身で実感

することができます。

くねくね体験散歩道で使用する水は愛・地球博の会場に降った雨を地下に貯留し、これを浄化して利用しています。訪れる人々に、水のループ（水循環）をより身近に感じてもらうため、くねくね散歩道では、このシステムを、合わせて説明・紹介することとしています。

4. 万博関連イベント

中部地方に存在する土木遺産や史跡をご案内し、その意義などをより詳しく紹介する中で、社会資本の魅力・役割・必要性などを知っていただく「エクスカージョン」に取り組みます。「エクスカージョン」とは、従来の見学会や説明をうけるタイプの視察とは異なり、1カ所に時間をかけて地域の自然や歴史・文化などさまざまな学術的内容で専門家の解説を聞くとともに、参加者も現地での体験や議論を行い理解を深めていく「体験型見学会」のことです。

また、「水のループ（水循環）」からのメッセージをより多くの人々へ伝えるため、入場者や他のパビリオンなどにも参加を呼びかけて、愛・地球博の会場、外とも連携した「打ち水大作戦 in EXPO」を展開します。愛・地球博に訪れた際には、ぜひ、「打ち水大作戦」に参加をお願いします。



愛・地球博マスコットキャラクター
モリゾーとキッコロ